

支援者を対象としたピアサポートの活用に係るアンケート調査について

1 アンケート調査の概要について

(1) 目的

支援者のピアサポートの活用に関する理解や認識、取組みの状況等について把握する。

(2) 対象

機関等の種別	機関等のカ所数
医療機関	2カ所
行政機関	10カ所
障害者相談支援事業所	67カ所
障害福祉サービス事業所等	252カ所
計	332ヶ所

上記のうち、精神障害者の支援経験を有する職員

(3) 実施方法

みやぎ電子申請システムを用いた Web アンケート

(4) 回答期間

令和4年3月10日（月）～令和4年3月31日（木）

(5) 内容

設 問	内 容
回答者の属性	回答者の所属、職種（医療機関のみ）、支援経験年数、ピアサポートの活用経験
問1 ピアサポートで得られる効果について	15項目のピアサポートで得ることができる効果について、10段階で評価する
問2 ピアサポートの効果を高める支援者の取組みについて（重要度）	12項目のピアサポートの効果を高める支援者の取組みについて、重要度を10段階で評価する
問3 ピアサポートの効果を高める支援者の取組みについて（実践度）	12項目のピアサポートの効果を高める支援者の取組みについて、重要度を10段階で評価する
問4 ピアサポートの効果を高める支援者の取組みについて（最も取り組む必要がある事柄）	12項目のピアサポートの効果を高める支援者の取組みのうち、最も取り組む必要がある事柄を1つ選択するとともに、その理由や背景を回答する
問5 ピアサポートの効果を高める支援者の取組みについて（その他必要な取組み）	12項目のピアサポートの効果を高める支援者の取組み以外に必要な取組みとその理由や背景を回答する

## 2 アンケート調査の具体的な内容について

### ○回答者の属性

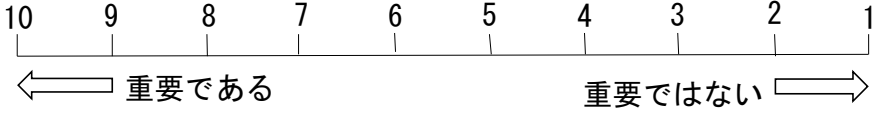
<b>所属機関</b>
・医療機関 ・行政機関 ・障害者相談支援事業所（委託、指定特定） ・障害福祉サービス事業所（通所系、入所系）※
<b>職種 ※医療機関のみ回答</b>
・医師 ・看護師 ・ソーシャルワーカー ・その他のコメディカルスタッフ
<b>精神障害者の支援経験年数（直接入力）</b>
〇〇年（年数を入力）
<b>これまでの精神障害者の支援におけるピアサポートの活用経験</b>
・活用したことがある ・活用したことはないが、ピアサポートの体験等について見聞きしたことはある ・活用したことも見聞きしたこともない

※通所系：自立訓練（生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型、  
就労定着支援、小規模地域活動センター、障害者地域活動推進センター  
入所系：宿泊型自立訓練、共同生活援助（グループホーム）

問1 ピアサポートで得られる効果についてお聞きます。最も効果があるを「10」、最も効果がないを「1」として、10段階で評価をしてください。

1-a ピアサポートを受ける当事者が困りごとや悩みを話すとき、安心感を与える	
10	1
9	2
8	3
7	4
6	5
5	6
4	7
3	8
2	9
1	10
←	→
効果がある	効果がない
1-b ピアサポートを受ける当事者が抱える生活のし辛さや苦悩について、共感を与える	
※上に同じ	
1-c ピアサポートを受ける当事者が抱える孤独感を軽減する	
※上に同じ	
1-d ピアサポートを受ける当事者が病気から回復するイメージを形成することを助ける	
※上に同じ	
1-e ピアサポートを受ける当事者が疾病管理する力を高める	
※上に同じ	
1-f ピアサポートを受ける当事者が困りごとの解決のために情報を収集することを促す	
※上に同じ	
1-g ピアサポートを受ける当事者が困りごとの解決のために社会資源を利用することを促す	
※上に同じ	
1-h ピアサポートを受ける当事者が希望の実現に向け、自発的に意見を発信することを促す	
※上に同じ	
1-i ピアサポートを受ける当事者が希望の実現に向け、チャレンジすることを促す	
※上に同じ	
1-j ピアサポートを受ける当事者が障害を受容していくことを促す	
※上に同じ	
1-k 家族がピアサポートを受ける当事者の精神疾患に関する理解を深めることを助ける	
※上に同じ	
1-l 家族がピアサポートを受ける当事者に対して、より適切に関わることを助ける	
※上に同じ	
1-m 支援者がピアサポートを受ける当事者に関する理解を深めることを助ける	
※上に同じ	
1-n 支援者がピアサポートを受ける当事者に対して、より効果的に支援することを助ける	
※上に同じ	
1-o ピアサポートを提供する当事者が他者の支えになることを通じて、自己有用感を高める	
※上に同じ	

問2 あなたは、ピアサポートの効果をより高めるための支援者の取組みについて、次の a~l の事柄は、どのくらい重要だと思いますか。最も重要であるを「10」、最も重要ではないを「1」として、10段階で評価をしてください。

2-a	ピアサポートを受ける当事者とピアサポートを提供する当事者との相性の適切なマッチング
	
2-b	ピアサポートを受ける当事者とピアサポートの活動内容との適切なマッチング ※上に同じ
2-c	ピアサポートを受ける当事者のニーズや課題に対応した、多様なピアサポート活動の必要性を学ぶこと ※上に同じ
2-d	ピアサポートを受けたい当事者がピアサポートの利用に関する情報を手軽に入手できるようにすること ※上に同じ
2-e	ピアサポートを提供する当事者や新たに提供しようとする当事者が自らの活動内容に関する情報発信をしやすくすること ※上に同じ
2-f	ピアサポートを受けていない当事者にピアサポートの利用効果と利用方法を周知すること ※上に同じ
2-g	ピアサポーターを提供する当事者およびピアサポーターを受ける当事者を対象としたピアサポートに関する体系的な養成プログラムの実施 ※上に同じ
2-h	ピアサポートを提供する当事者が心身の状態、生活を安定させるための支援 ※上に同じ
2-i	ピアサポートを提供する当事者が自分のできる範囲・限界を認識できるためのサポート ※上に同じ
2-j	ピアサポートを提供する当事者が困ったときに相談にのること ※上に同じ
2-k	ピアサポートを提供する当事者を支援チーム（※）の一員に加えること ※精神障害者の支援のため、さまざまな職種の専門家から構成されるチーム ※上に同じ
2-l	支援者・地域住民等に対する、ピアサポートが地域で果たす役割に関する啓発 ※上に同じ



問4 あなたは、支援者が取り組むべき最も重要な事柄は何だと思いますか。問3のa~1のうちからひとつ選択してください。

また、その理由や背景についてお答えください。

<b>4-a 最も重要な事柄（一つ選択）</b>
a ピアサポートを受ける当事者とピアサポートを提供する当事者との相性の適切なマッチング
b ピアサポートを受ける当事者とピアサポートの活動内容との適切なマッチング
c ピアサポートを受ける当事者のニーズや課題に対応した、多様なピアサポート活動の必要性を学ぶこと
d ピアサポートを受けたい当事者がピアサポートの利用に関する情報を手軽に入手できるようにすること
e ピアサポートを提供する当事者や新たに提供しようとする当事者が自らの活動内容に関する情報発信をしやすいようにすること
f ピアサポートを受けていない当事者にピアサポートの利用効果と利用方法を周知すること
g ピアサポーターを提供する当事者およびピアサポーターを受ける当事者を対象としたピアサポートに関する体系的な養成プログラムの実施
h ピアサポートを提供する当事者が心身の状態、生活を安定させるための支援
i ピアサポートを提供する当事者が自分のできる範囲・限界を認識できるためのサポート
j ピアサポートを提供する当事者が困ったときに相談にのること
k ピアサポートを提供する当事者を支援チーム（※）の一員に加えること ※精神障害者の支援のため、さまざまな職種の専門家から構成されるチーム
l 支援者・地域住民等に対する、ピアサポートが地域で果たす役割に関する啓発
<b>4-b 理由や背景</b> (4-a の取組みの内容が必要と考える理由や背景について、具体的に記載してください)

問5 問3のa~1以外で、支援者が取り組むべき必要があると考える事柄と、その理由や背景についてお答えください。

<b>5-a 取組みの内容</b>
<b>5-b 理由や背景</b> (5-a の取組みの内容が必要と考える理由や背景について、具体的に記載してください)

3 アンケート調査の結果について（令和4年3月15日時点 総回答数78 うち有効回答数60）

(1) 回答者の属性について

① 所属

所属	医療機関のうち職種	人数
医療機関	医師	2
	看護師	0
	ソーシャルワーカー	1
	その他のコメディカルスタッフ	2
行政機関		33
障害者相談支援事業所		10
障害福祉サービス事業所等		12
	計	60

② 精神障害者の支援経験年数

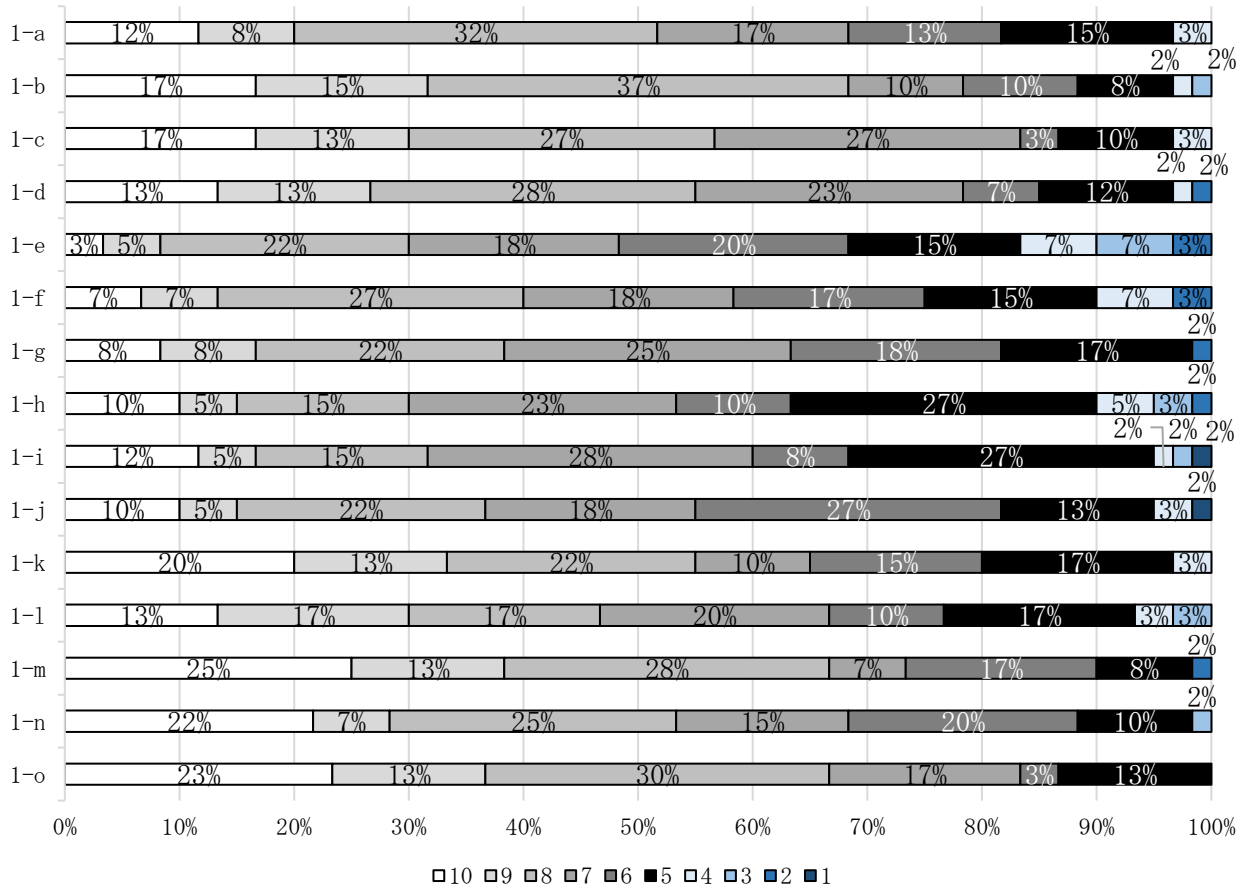
年数	人数
1～5年	27
6～10年	14
11～15年	12
16年～20年	7
計	60

③ ピアサポートの活用経験

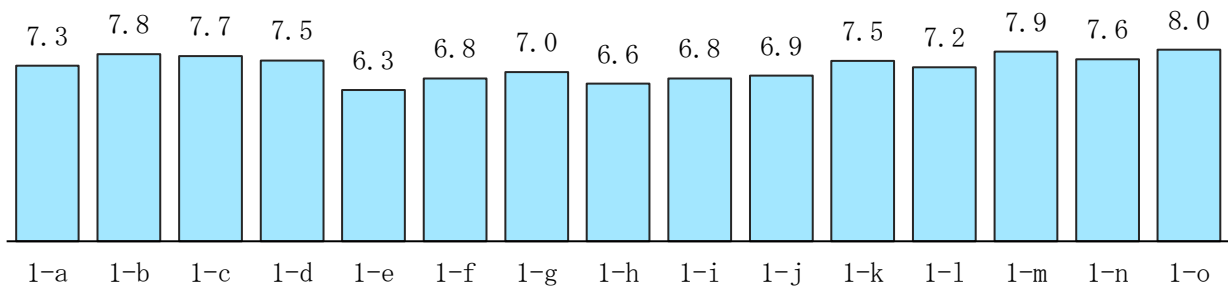
活用経験	人数
活用したことがある	18
活用したことはないが、ピアサポートの体験等について見聞きしたことはある	36
活用したことも見聞きしたこともない	6
計	60

(2) ピアサポートで得られる効果について

① 10段階評価の割合



② 各項目の平均値

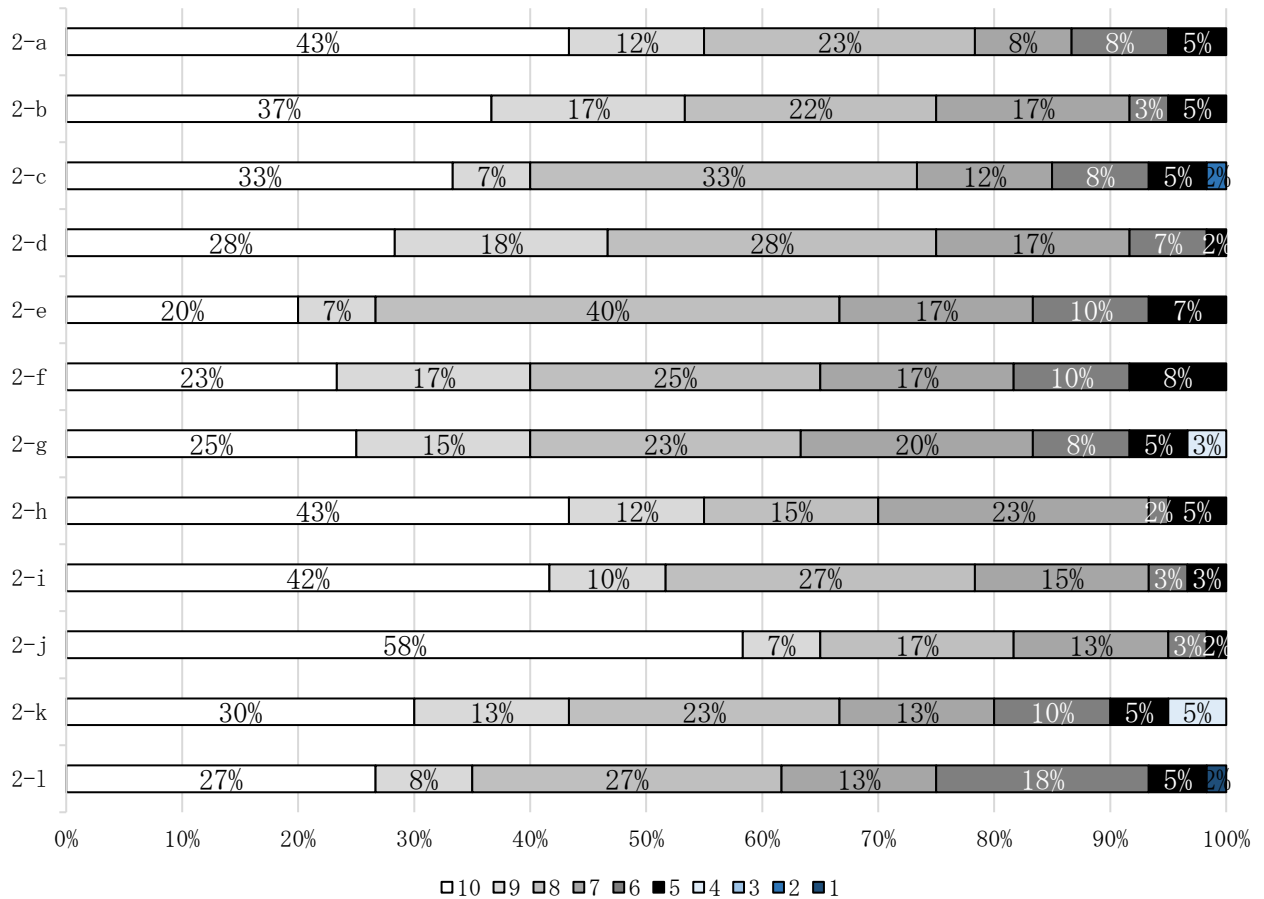


1-a	ピアサポートを受ける当事者が困りごとや悩みを話すとき、安心感を与える
1-b	ピアサポートを受ける当事者が抱える生活のし辛さや苦悩について、共感を与える
1-c	ピアサポートを受ける当事者が抱える孤独感を軽減する
1-d	ピアサポートを受ける当事者が病気から回復するイメージを形成することを助ける
1-e	ピアサポートを受ける当事者が疾病管理する力を高める
1-f	ピアサポートを受ける当事者が困りごとの解決のために情報を収集することを促す
1-g	ピアサポートを受ける当事者が困りごとの解決のために社会資源を利用することを促す
1-h	ピアサポートを受ける当事者が希望の実現に向け、自発的に意見を発信することを促す
1-i	ピアサポートを受ける当事者が希望の実現に向け、チャレンジすることを促す
1-j	ピアサポートを受ける当事者が障害を受容していくことを促す
1-k	家族がピアサポートを受ける当事者の精神疾患に関する理解を深めることを助ける
1-l	家族がピアサポートを受ける当事者に対して、より適切に関わることを助ける
1-m	支援者がピアサポートを受ける当事者に関する理解を深めることを助ける
1-n	支援者がピアサポートを受ける当事者に対して、より効果的に支援することを助ける
1-o	ピアサポートを提供する当事者が他者の支えになることを通じて、自己有用感を高める

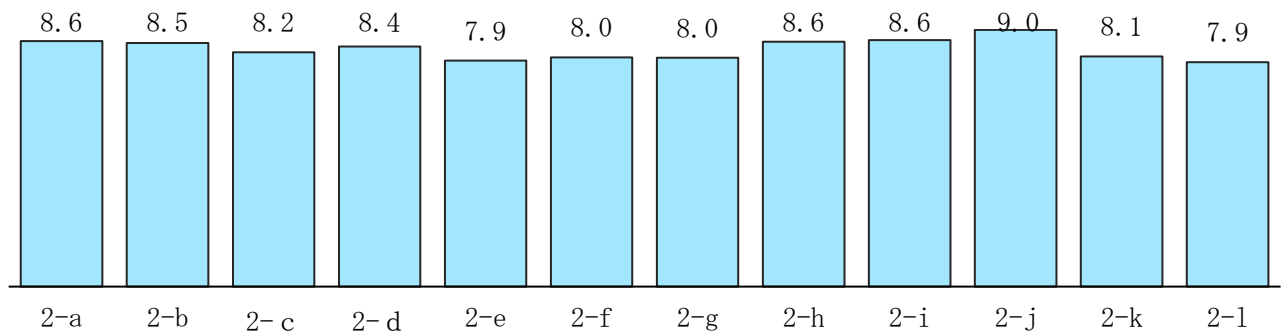


(3) ピアサポートの効果を高める支援者の取組みについて (重要度)

① 10段階評価の割合



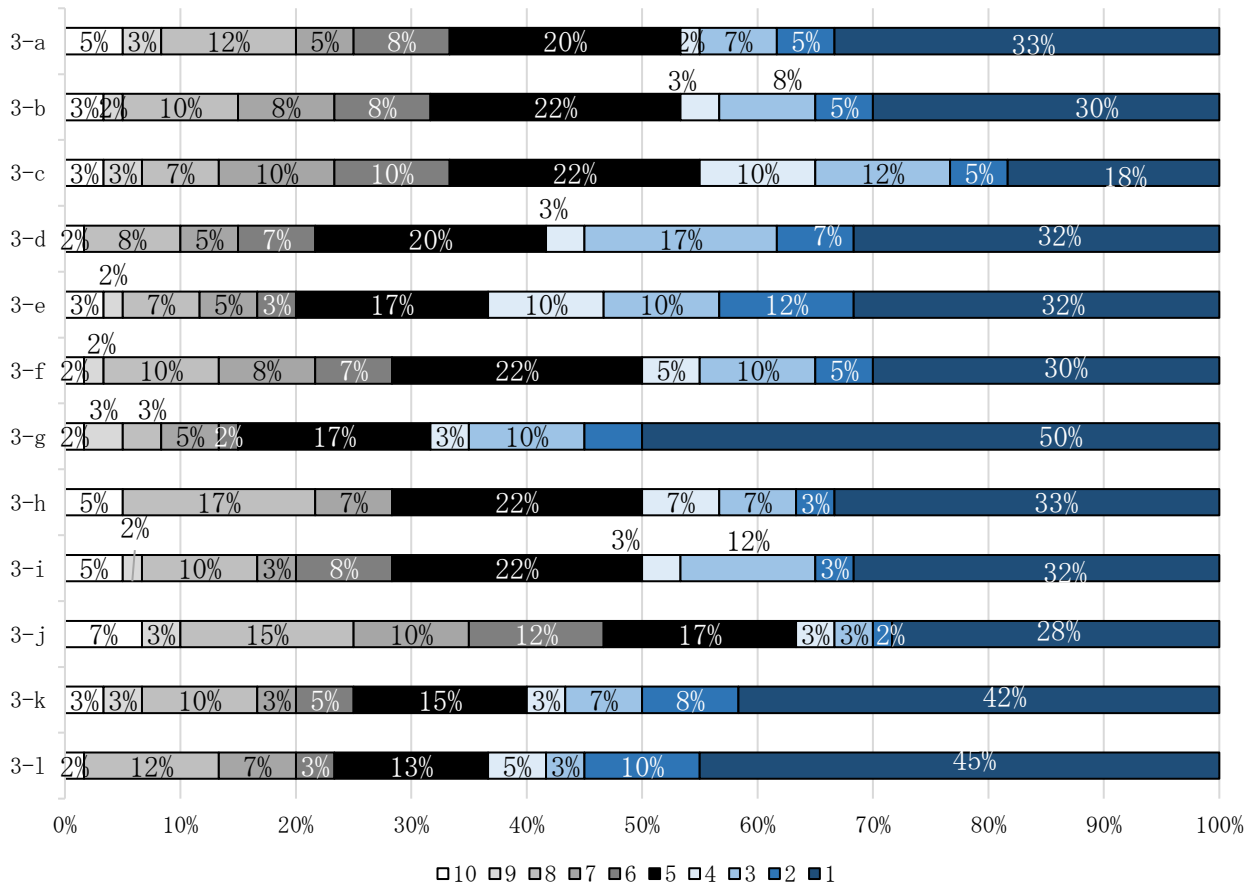
② 各項目の平均値



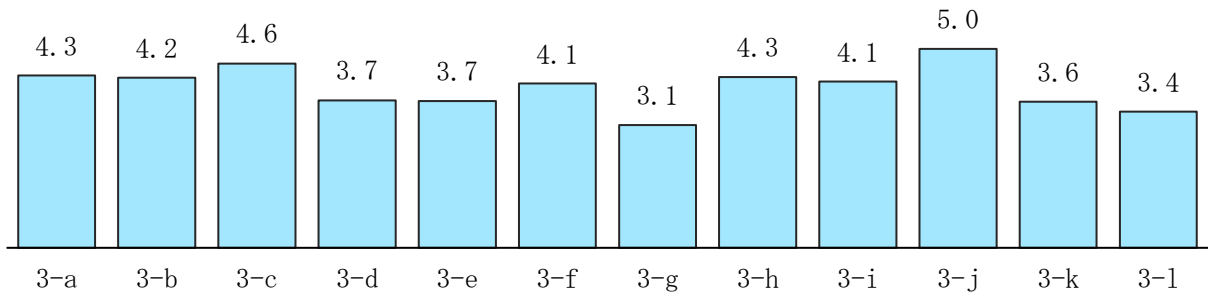
- 2-a ピアサポートを受ける当事者とピアサポートを提供する当事者との相性の適切なマッチング
  - 2-b ピアサポートを受ける当事者とピアサポートの活動内容との適切なマッチング
  - 2-c ピアサポートを受ける当事者のニーズや課題に対応した、多様なピアサポート活動の必要性を学ぶこと
  - 2-d ピアサポートを受けたい当事者がピアサポートの利用に関する情報を手軽に入手できるようにすること
  - 2-e ピアサポートを提供する当事者や新たに提供しようとする当事者が自らの活動内容に関する情報発信をしやすいようにすること
  - 2-f ピアサポートを受けていない当事者にピアサポートの利用効果と利用方法を周知すること
  - 2-g ピアサポーターを提供する当事者およびピアサポーターを受ける当事者を対象としたピアサポートに関する体系的な養成プログラムの実施
  - 2-h ピアサポートを提供する当事者が心身の状態、生活を安定させるための支援
  - 2-i ピアサポートを提供する当事者が自分のできる範囲・限界を認識できるためのサポート
  - 2-j ピアサポートを提供する当事者が困ったときに相談にのること
  - 2-k ピアサポートを提供する当事者を支援チーム(※)の一員に加えること
- ※精神障害者の支援のため、さまざまな職種の専門家から構成されるチーム
- 2-l 支援者・地域住民等に対する、ピアサポートが地域で果たす役割に関する啓発

(4) ピアサポートの効果を高める支援者の取組みについて (実践度)

① 10段階評価の割合



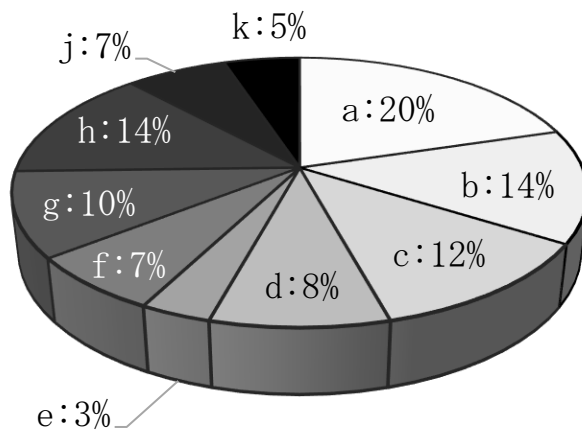
② 各項目の平均値



- 3-a ピアサポートを受ける当事者とピアサポートを提供する当事者との相性の適切なマッチング
  - 3-b ピアサポートを受ける当事者とピアサポートの活動内容との適切なマッチング
  - 3-c ピアサポートを受ける当事者のニーズや課題に対応した、多様なピアサポート活動の必要性を学ぶこと
  - 3-d ピアサポートを受けたい当事者がピアサポートの利用に関する情報を手軽に入手できるようにすること
  - 3-e ピアサポートを提供する当事者や新たに提供しようとする当事者が自らの活動内容に関する情報発信をしやすいようにすること
  - 3-f ピアサポートを受けていない当事者にピアサポートの利用効果と利用方法を周知すること
  - 3-g ピアサポーターを提供する当事者およびピアサポーターを受ける当事者を対象としたピアサポートに関する体系的な養成プログラムの実施
  - 3-h ピアサポートを提供する当事者が心身の状態、生活を安定させるための支援
  - 3-i ピアサポートを提供する当事者が自分のできる範囲・限界を認識できるためのサポート
  - 3-j ピアサポートを提供する当事者が困ったときに相談にのること
  - 3-k ピアサポートを提供する当事者を支援チーム(※)の一員に加えること
- ※精神障害者の支援のため、さまざまな職種の専門家から構成されるチーム
- 3-l 支援者・地域住民等に対する、ピアサポートが地域で果たす役割に関する啓発

(5) ピアサポートの効果をも高める支援者の取組みについて（最も取り組む必要がある事柄）

① 項目別の割合



a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
20%	14%	12%	8%	3%	7%	10%	14%	0%	7%	5%	0%

② 理由や背景

a ピアサポートを受ける当事者とピアサポートを提供する当事者との相性の適切なマッチング
<ul style="list-style-type: none"> <li>受け入れる側のハードルをいかに下げられるかが重要であると考えた時に相性は非常に大事だなと思う。</li> <li>最終的には相性が合うかが一番重要と考えているため。</li> <li>受け手と聞き手の相性が合わないことには、何も進まないと思われる。ただし、提供する当事者が家族に対しての情報提供等は別ではあるが。日々の支援においても、当事者との関係性を気付くことを大事にしているため、やはり互いの関係性が構築できないうちは支援も入らないように感じるため。</li> <li>ピアサポートを受ける当事者は、ピアサポートを望んでいたとしても、いざ支援を受けるとなると、サポート内容以前に「相手がどんな人なのか」とその人となりに関心を持つことが多いと思われる。相手の話し方やキャラクターによって、自分のことを理解してくれるか・受け入れてくれるかなどを判断し、安心感や信頼感が生まれると、ピアサポートの質が向上すると思われるため。</li> <li>マッチングがうまくかみ合わないと期待する効果は得られにくいと思われるため。</li> <li>相性が良く信頼関係を築いていく中で、今後の取組みに対しての働きかけや作用も変化するのではないかと考えたため。</li> <li>適切なマッチングこそがピアサポートの有用性に直結すると思われる。当事者が相談につながる際の成功体験となると思うため。</li> </ul>
b ピアサポートを受ける当事者とピアサポートの活動内容との適切なマッチング
<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアサポート活動の適切なマッチングにより、ピアサポートを受ける当事者が、共感を持ちつつより支援を実感でき、精神面でもより安定して生活できるように思うため。</li> <li>ピアサポートをうける当事者の利益の観点から、ひいてはピアサポートを提供する当事者の不利益にならない観点から。</li> <li>ピアサポートを受ける当事者と活動内容がマッチしていることで、利用者が置かれている状況や困りごとが共感されやすいと感じる。また、症状の経過や将来的にどのような生活をしているのかなど、少し先の未来を利用者がイメージしやすくなると思われるため。</li> <li>見当違いのピアサポートとならないようにするために必要な支援と考える。</li> </ul>
c ピアサポートを受ける当事者のニーズや課題に対応した、多様なピアサポート活動の必要性を学ぶこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>支援者におけるピアサポートの認知度が低いと感じるため。ピアサポートの活用を広げるためには、まず支援者側がピアサポートの効果や必要性について学ぶ必要があると考えるため。</li> <li>仙台市の委託相談支援事業所がそれぞれの障害で対応してきた経緯があり、精神障害に特化してきた相談事業所のみピアの相談員がいたり、ピアサポーターの養成に取り組んでいるものと考えている。3障害をワンストップで受けるようにしているが、ピアサポーターにつなげる方法をそもそも知らないため。</li> <li>支援者自身がまだまだピアサポートの活動や必要性についての十分な知識を持ち合わせていないため。</li> <li>ピアサポートを受けたいと思っている方のニーズ等を理解して対応できるような様々な活動についての必要性を知ったうえで活動することが、より効果的に感じられるため。</li> </ul>
d ピアサポートを受けたい当事者がピアサポートの利用に関する情報を手軽に入手できるようにすること
<ul style="list-style-type: none"> <li>周知が無ければ始まらないから。</li> <li>情報の発信手段は様々あると思うが、様々な障害が壁となり見ても理解が出来ないケースが多いと思う。周知することは理解をすることであると思うため。</li> <li>現状まだまだ、当事者のピアサポートについての普及・啓発が進んでいないと感じるため。</li> <li>相性や内容等については、完全に一致することは難しいと思うが、まずピアサポーターと出会い活用することの必要性は強く感じるため。</li> </ul>

<p><b>e ピアサポートを提供する当事者や新たに提供しようとする当事者が自らの活動内容に関する情報発信をやすくすること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアサポートの存在や活動内容が広く普及されるようサポートすることが、ピアサポートの活用にも最も繋がると感じたため。</li> </ul>
<p><b>f ピアサポートを受けていない当事者にピアサポートの利用効果と利用方法を周知すること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普及啓発が必要だと思ふから。</li> <li>・利用できる仕組み自体を知らない方が多く、行政としても周知が不十分と考えるため。</li> <li>・助けを必要としている当事者が、そんなことやって何になるの？と知っているうちは、先には進めないから。</li> <li>・身近な事例で、自分が苦しんでいる、悩んでいる事に対する解決事例があるなら興味をもってもらえるから。</li> </ul>
<p><b>g ピアサポーターを提供する当事者およびピアサポーターを受ける当事者を対象としたピアサポートに関わる体系的な養成プログラムの実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアサポーターであっても専門性や相談支援の理論を理解しないまま、その方固有の考え方に偏らないよう知識を習得するべきであるから。</li> <li>・現状、人を助ける、支援する「役割」を全うできるほどの準備性がある方はなかなかいない。支援において自分のさじ加減や感覚で他人の処遇を決めるのは大変危険なことである。組織の一員として適応できるよう育成していく体制が必要だと考えるから。</li> <li>・ただでさえ多忙な業務のため、十分な育成時間が取れないため。</li> <li>・ピア活動を行う当事者が受けられる研修（プログラム）が少ないため、活動意欲はあるが実践できない方々が多いため。</li> <li>・支援者が、ピアサポートに関する体系的な養成プログラムを実施することで、一定の知識等を学んだピアサポーターを育成することができるようになるから。</li> <li>・ピアサポートは支援にとって重要な役割を果たすと感じます。行政、民間含め資源はあるが、どのような背景がある方々なのか、団体なのか等が分からず、気軽に当事者に紹介できないことがあります。一定のプログラムがあると、安心できるから。</li> </ul>
<p><b>h ピアサポートを提供する当事者が心身の状態、生活を安定させるための支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートする側に余裕がなくては、適切な支援はできないと考えています。ピアサポートに興味がある方は大勢いますが、体調や生活に余裕がない方がほとんどです。ピアサポートはまだまだ身近に参考になる事例や、スーパーバイザーを探すことも難しいのが現状です。そのうえでピアサポーターとして活動するのは、私自身にとっては心身に負担が多いと思っています。また、安心してピア性を活かせる場もほとんどありません。フォーマルな場ではピア相談員のようなものを設置・採用する余裕がある事業所は少なく、クローズ就労せざるを得ないのが現状です。インフォーマルな場では、スーパーバイザーやチームもなしに相談を受けることに不安があり、あえて活動しようとは思いません。それでも、ピアサポートは提供する側にも自己肯定感や社会の役に立っているという感覚を得ることができ、回復の効果は大きいと思います。</li> <li>・ピアサポートの前提として、ピアサポートを提供する当事者の状態が安定していることが重要と考えるため。</li> <li>・ピアサポートを提供する側が安定していることがピアサポートを成立させるための大前提になるから。</li> <li>・ピアサポーター自身が安定した状態でなければ他者の話を聞くことはできないと考えるため。</li> <li>・提供する過程で提供する当事者側に動揺や葛藤が生じ、共倒れになる恐れもある。したがって提供者自身の病状や生活の安定が最優先されるべきと考えるため。</li> <li>・生活の中の困りごとへ対する解決策を一緒に考えたり、環境調整を行うなどの支援が必要と感ずるため。</li> <li>・ピアサポートを提供する者の心身の状態が不安定だと、支援する中でさらに悪化したり、受ける者にも影響が出たりするため。</li> </ul>
<p><b>i ピアサポートを提供する当事者が自分のできる範囲・限界を認識できるためのサポート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答なし</li> </ul>
<p><b>j ピアサポートを提供する当事者が困ったときに相談にのること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアサポートに寄り添った経験から、ピアサポート活動がやりがいや生きがいに繋がりがながらも、ご自身への負荷は大きなものであったと感じたため。</li> <li>・範囲・限界を認識できるためのサポートは、支援者の視点としては必要だと強く感じるが、サポートを提供する当事者がしっかりとニーズとして認識していないと成立しない。せめて、困った時にすぐにしっかり相談に乗れる体制を継続したいから。</li> <li>・活動する中では、相手（ピアサポートを受ける側）の反応により様々な感情が出てくると思うから</li> <li>・ピアサポーターの安定が支援の基本になるため。</li> </ul>
<p><b>k ピアサポートを提供する当事者を支援チーム（※）の一員に加えること ※精神障害者の支援のため、さまざまな職種の専門家から構成されるチーム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「視点の提供」に最も重要な意味があるから。</li> <li>・相談支援専門員と言う職種・業務を活かしながら、ピアサポーターの活躍の場を広げられるため。</li> </ul>
<p><b>l 支援者・地域住民等に対する、ピアサポートが地域で果たす役割に関する啓発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答なし</li> </ul>



(6) ピアサポートの効果をも高める支援者の取組みについて (a~l 以外で取り組む必要がある事柄)

No	取り組む必要がある事柄	理由や背景
1	ピアサポートを行うことで支援者も被支援者も利益を得られる仕組み作り	ピアサポートに限らず、事業所に直接利益がない新しいことを限られた人員のなかで提案するのは難しいです。ピアサポーターによる支援に興味がある支援者も多くいますが、話をきくと「雇用はできない」「無料で使いたい」「ボランティアのように外部から派遣してもらいたい」という声をききました。支援者は半ば事業者としての立場から、ピアサポートの費用対効果を考えているようです。ピアサポーターをこのように使われることで、当事者は負担や責任だけが増すという困難な状況に陥ることが考えられます。ピアサポーターとして活動する希望があり、「ピアサポーターをやってみませんか!」という声だけがあって対価が得られない、活動場所がないという問題があります。以上のように、多くの支援者はピアサポーターの効果は認めており、ピアサポーターとして活動したい当事者がいるのに普及しないのは利益が出ないのためと私は思っています。
2	効率よく仕事ができる環境を整え、時間をつくること	困ったときにはすぐに相談に応じたいと思っている。しかし、相談に乗ることでその分の時間に行う予定だった業務が回らず、結果的に利用者へ不利益になってしまうことも懸念される。また、支援者自身のメンタルヘルスも脅かされる可能性がある。そのためにはまず、業務の簡略化や効率化が必要である。
3	ピアサポーターの絶対数を増やすこと、当事者同士が会える機会を多数創出すること	疾患や障害の在り様、生活の課題、回復の道筋は個々で千差万別である。「誰と誰がマッチするか」を考えるのではなく、そのバリエーションの多様さこそが当事者にとって有益なのではないかと考える。アディクション問題における自助グループの在り方などが参考になるのではないかと。
4	ピアサポーターの可能性の発掘と応用力	パッケージ化されたものではなく、いろんな可能性を考えていきたいから
5	ピアサポートを行う際の、サポート側への支援や体系的な教育	ボランティアの域を出ていない
6	支援者がピアサポーターを支援者の一人としてしっかりと受け入れること	ピアサポーターは当事者であり支援者であるのだが、支援者はどうしてもその当事者の部分を強く意識してしまう
7	ピアサポートを提供する場を作ったり増やしたりすること	ピアサポートを提供する場を作ったり、増やすことで、ピアサポートを受ける当事者が増えたり、ピアサポートを提供する当事者の支援経験を増やし、ノウハウを蓄積できると思うため。
8	委託相談支援事業所における3障害の専門性について	仙台市の委託相談支援事業所は、3障害それぞれの専門的に対応してきた経緯がある。現在は3障害、難病も加えてワンストップで受けるよう指示があり対応している。ただ、身体、療育、精神それぞれの相談事業所で職員配置や運営が異なったままになっている。3障害ワンストップでと言いつつも、公所はそれぞれの障害で専門的な対応をしていたりする。区内でも、区役所の担当者は、専門性を見極めながら、それぞれの相談事業所に支援の依頼をかけてきたりもする。同じ相談事業所に務めているが、ピアサポーターの存在は知っているものの、どこで何をしているかは詳しくは知らない現状。
9	ピアサポートを提供する当事者の心身、生活の安定と、養成プログラム	精神障害者への支援は、思った以上に精神的に消耗することが多いと思います。提供する側も、される側もお互いに消耗することになると、続かなくなるので、時間的な配慮や進め方、スキルなどでのリカバーが大切ではないかと思っています。また、マッチングは非常に大切だと思いますが、その前に、ピアサポートを提供する当事者の選定がとても重要ではないかと考えてます。この人ならできそうという主観ではない、何か客観的な判断方法が必要かと思っています。
10	支援者がどのようにしたら問題が改善出来るかを、自身が考えることが大切であると思う。個性を活かした支援が大切	ガイドラインは重要。しかし研修会は洗脳傾向(グループワーク等)にあることが多い。独裁的社会主義とならないようにするには、独自の発想が大切であり洗脳でしか学ばないケースは、応用的問題には対応出来ない現状にあると思う。
11	ピアサポートを提供する当事者に対し、サポートをする者同士の情報交換	ピアサポートを提供する当事者への支援について、考えさせられることが多かったため。多く手立てや事例を持っておくことで、当事者が望む限り、生き生きとピアサポートを提供してほしい。それを応援したい。
12	ピアサポーターを養成する場合に、ピアサポートを提供する当事者を講師として迎える事	実際のピアサポートに取り組まれている当事者からの実践を聴く機会がある事は、その後の活動において貴重な機会になると考えられるため。
13	ピアサポーターに関する知識の習得	ピアサポートという言葉は知っていても活動内容や利用効果などに触れた事がないため、まずは知識を含めた活動の必要性について知ることが重要だと考える。

No	取り組む必要がある事柄	理由や背景
14	ピアサポーター＝精神障害に限定しないことが大切です。例えば、知的障害のある当事者がピアサポーターとなり得ること、児童においては支給対象者は親である為、親がピアサポーターとなり得ます	障害種別を限定せず、当事者がその経験とピアサポーターとしての見識を発揮し、自己効力感を抱ける機会を創出する為。
15	ピアサポーターを支える仕組みとピアサポーター単独ではなくチームの一員として支援に入ってもらい仕組み	ピアサポーターが継続的な活動を行うことにより支援の経験が積み重なり、ピアサポート支援の厚みと重要性が増し、結果として当事者支援に大きな意味があると思われるため。
16	ピアサポーター養成のプログラムはもとより、ピア職員として採用後の研修等の実施	当事業所はピア職員を採用しているが、長期の採用となっていることが一因なのか「寄り添う」「リカバリー」の視点が薄れてしまっている。ピアならではの支援ではなく、職員と同じようなスタンスでの支援になってしまっている。ピア職員として活動をふりかえる機会や研修等は必要と思われる。
17	精神障害を有する対象者とピアサポートを提供する当事者（どちらも当事者）双方の困りごとに対しての支援と社会への発信	当事者の経験と医療の現場で職員が感じる感覚を重ねて考え、患者さんにとってよりよい生活へつながるよう社会、行政へ発信するパイプ役のような役割も必要だと考えます。
18	当事者のグループで行うピアサポート	1対1だと解決方法に限られるが、グループで行うことによって相互作用により様々な解決方法が見つかり、その中から自分に合った方法を選べる。また、支援する方のピアサポーターにも解決方法に関する気づきが得られる。
19	ピアサポーターのひとたちが集うことができる当事者グループの開催などを支援者や行政がコーディネートすることを考える	4-@の設問でも書いたように、ピアサポーターの方が当事者の方と関わる中で悩むこともあるように思う。そのようなとき支援者がピアサポーターの相談にのることも大切なことではあると思うが、同じくピアサポーターをしている人どうして集う場などがあればお互いの支えあいになると思うし、そのような支えてくれる体制ができていれば新たにピアサポーターに向かうひとが多くなるかもしれないと思った。そのような場づくりを、はじめは支援者や行政がコーディネートして、将来的にピアサポーターの団体が開催するというようなシステムができればよいと思う。